大豆通信

11月になると大豆の収穫が始まります
適期収穫で高品質・安定生産を目指しましょう!



大津中央
営農課　桐原

収穫の適期を逃すと品質や収量に大きく影響します。
収穫間近には、圃場を観察し、適期収穫を行うことが大切です。

適期収穫の目安

①子実水分18%以下

②完全落葉後15日目以降

③莢(さや)を振ると「カラカラ」と音がした時

④茎水分50%以下
（茎がポキッと折れる状態）



適期を逃すと・・・

早い場合

水分を多く含んだ茎・莢・子実により被害粒が発生する恐れがあります。

遅い場合

しわ粒の増加や自然落粒により品質・収量が低下する恐れがあります。

収穫時間帯の判断

大豆の水分は、気象条件によって1日の中で変化します。
前日や当日の気象条件を考慮し、収穫時刻を判断することが大切です。

晴天の場合
午前10時00分～
午後5時00分頃まで

曇天の場合
午前11時00分頃～
午後3時00分頃まで

前日雨の場合
なるべく翌日以降に延期



収穫前チェックポイント

収穫前には汚損粒の要因を減らし、品質低下を防ぐことが重要です。

①雑草・青立ち株の除去

茎水分の高い雑草や青立ち株を大豆と一緒に刈り取ると葉や茎の汁が大豆に付着することで汚損粒のリスクが高まります。



青立ち株とは?

収穫期になって莢が成熟しても茎葉の成熟が進行せず水分含量が高く緑色のままになっている株のことです。

青立ちの原因

カメムシ類の吸汁害
開花期以降の土壌の乾燥による莢数等の減少
出芽不良、湿害、連作等による欠株など

↓

子実量が減少し、茎葉生育量とのアンバランスにより発生

②コンバイン内の清掃

コンバインの機体内に昨年刈取りした際の収穫物、土やほこり等が残っていると汚損粒の原因となります。